

## チャリティーゴルフコンペ開催

1月24日に一般社団法人九州動物福祉協会(理事長:日名子泰通 以下、当協会)としては5回目となる毎年恒例のチャリティーゴルフコンペが伊都ゴルフ倶楽部(糸島市)にて開催されました。

当日の朝は、気温0度の白い雪が舞う中でのスタートとなり、参加者は顔や耳を覆うなど防寒対策に追われましたが、昼頃には青空も見え、30組118名の参加者は終始和やかな雰囲気の中で思い思いにプレイを楽しみました。

ホールアウト後は、日頃から当協会の活動にご理解を頂く多くの企業、団体、スリーブ会から協賛された商品の抽選会も行われ、盛会のうちに無事解散となりました。

チャリティーにご賛同頂いた参加者はもちろん、協賛頂いた企業の皆様への感謝とともに、引き続き当協会へのご理解とご支援をお願いするとともに、ゴルフコンペの開催時期の検討も含め、より多くの皆様が参加しやすいよう改善を図って参ります。



## 九州災害時動物救援センター施設概要

管理棟(診療室、事務室、ミーティングルーム、宿泊所)  
大犬舎×1棟、中犬舎×1棟、コテージ型犬猫舎×14棟、大型ドッグラン×3区画、中型ドッグラン×2区画



### 九州災害時動物救援センター

所在地: 大分県玖珠郡九重町湯坪1625  
TEL: 0973-79-2741

## 寄付のご報告

- ①「九州災害時動物救援センター」への一般寄付金  
累計額 ¥12,618,411
- ②「第5回チャリティーゴルフコンペ(1/24)」  
合計額 ¥3,210,000  
※会費、特別協賛、協賛の合計

- ③「一般社団法人九州動物福祉協会」賛助会員 (H30,2/15現在)

	個人	法人	合計
会員数	28	71	99
入会口数	128	279	407
入金額	128,000	2,789,676	¥2,917,676

皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

# このえ 九重の風



# No. 2

一般社団法人九州動物福祉協会  
福岡県福岡市中央区渡辺通 5-2-25 7F

## 九州災害時動物救援センター落成式

平成29年10月1日、大分県九重町に於いて当協会関係者や各自治体担当者を始めご支援を頂いた多くの企業の皆様のご臨席のもと、「九州災害時動物救援センター(以下、同センター)落成式」が盛大に執り行われました。

当初の計画では平成29年春の開所を予定していた同センターでしたが、熊本地震の発災を受けて急ピッチで施設整備を進め、一部施設を平成29年6月に「熊本地震ペット救援センター」として開所し、多くの被災動物の保護活動の傍ら、他の施設についても本来の計画に沿って随時改修を進め、合計14棟のバンガローを犬猫舎に改修し、中央に1,000平米を超えるドッグランを整備、また敷地の全てを防獣フェンスで囲い野生動物の侵入を防ぐとともに防疫の面からも安全な飼養管理が行えるようになりました。また犬猫舎の床には温泉を活用した床暖房施設も整備され、冬場の室温管理についても動物たちが快適に過ごせる環境が整いました。当日は施設見学会も行われ、古賀センター長の改修工事の説明が行われ、以前から見違える



ように生まれ変わった施設に出席者からも驚きの声が上がっていました。

その後、近隣で同センターの協力企業である「くじゅう飯田高原ボスコ」に場所を移し落成式が行われました。環境省動物愛護管理室の則久室長をはじめ来賓の方々からのご祝辞を頂き、また日本獣医師会・藏内会長より支援企業への感謝状贈呈式も併せて行われました。



落成式に先立ち明治記念館(東京)にて九州災害時動物救援センター支援企業表彰式が行われました。



## 吉原理事ご逝去のお知らせ



故 吉原 太郎理事

1月20日に福岡県議会議員であり当協会の理事を務める吉原太郎先生が83歳でご逝去されました。吉原先生は昭和62年の県議初当選から8期連続当選され、平成11年には第50代福岡県議会議員に就任されるなど県政の要としての重責を長年に渡り担われて来られました。また、当協会の前身

である「社団法人福岡県動物福祉協会」の第3代理事長として動物福祉活動の広域化に向けた組織改編の中心としてご尽力頂き、改組以降も理事として多大なる功績を残されました。謹んで吉原先生のご冥福をお祈り申し上げます。

# 災害時ペット救護人材育成セミナー



日本初の常設ペットシェルターとして設置された「九州災害時動物救援センター（以下、当センター）」は平常時の活動として災害時の動物救護人材の育成とネットワークの構築に取り組んでおり、そのコア事業として「災害時ペット救護人材育成セミナー」を開催しました（第一回：平成29年10月11～12日、第二回：同年同月23～24日）。



今回は、東日本大震災や新潟中越地震の際に実際に被災地で活動された職員や獣医師の方を講師に迎え、福岡県保険医療介護部・生活衛生課のご協力のもと福岡県を中心に行政の職員や動物愛護推進員の方を対象とした非常に実践的な内容となりました。2回のセミナーで述べ60名を超える参加を頂き、一日目の座学、二日目の実務講習とも熱のこもった雰囲気の中で有意義な講習が行われました。参加者からも今後の継続的なセミナー実施を求める声も頂き、より幅広い人材育成の必要性を確認いたしました。



# 杉本彩さん来訪



タレントの杉本彩さんがセンターを訪れスタッフを激励いただきました。杉本さんは女優やダンサーなどの芸能活動の傍ら、自らが代表を務める公益財団法人動物環境・福祉協会Evaを通じて動物福祉の観点から様々な課題

に取り組んでおられます。当日もセンターの飼養環境や保護の経緯などスタッフからの説明に熱心に耳を傾けられ、また動物たちにも優しく話しかけられるなど、その姿勢には動物に対する

深い愛情を感じました。今後もセンターの活動に対して力強いご支援をいただくとともに、動物の幸せを願う仲間として相互に協力していきます。



## コラム

### 日本人と災害と

人間に限らず犬も猫も、知らない物、経験したことのない事に遭遇すると恐怖心が芽生えます。大災害のような今まで経験したことのない事態に遭遇すると、ヒトや動物の脳の中では、これまでの体験で脳の中に蓄積されたデータベースを瞬時に検索し、同じものを探そうとします。しかし、もし自分のデータベースになかった時には、記憶の中で似た状態を探そうとします。そしてそれでも見つからなかった場合には、目の前の事実を「無かった」ことにするのです。

なぜかと言うと、そうしなければ心の安定が保たれず、ノイローゼや精神障害になってしまうからです。なかった事にするために脳は視野を狭め、耳を塞ぎ、むりやり他の事を考えようとするのです。しかもそれは瞬時に、そして自動的に行われます。

日本は古来より多くの災害に見舞われてきました。我々の祖先はその経験を石碑に刻み、言い伝えとして後世に伝えて

きました。そうやって日本という世界でもまれに見る災害大国において延々と生き延びてきたのです。

しかし、近年はこの貴重な体験を活かすこともなく記憶から消しているように思います。災害に対する検証や反省と対策、そして何より「伝えること」を十分に講じないまま、次の災害を真正面から受け止めるようになってしまったのです。たぶん科学文明を過信して、人間が一番だとうぬぼれたからでしょう。その結果多くの人命が失われ、さらに多くの動物達が避けられずの死の淵に呑み込まれてしまったのです。

今、私たちに一番必要な事は、「災害がそこにある」ことを認めることです。起こるべく災害を認識し、自分でできる方策をきちんと準備すれば、生き延びる確率は格段に上昇します。そして、その方策の中に動物たちを上手に組み込むようにすれば、その動物たちはヒトの生存とその後の復興の大きな支えとなるでしょう。

九州災害時動物救援センター  
副センター長・獣医師  
船津敏弘

# 熊本地震ペット救援センター閉所式



平成28年4月に発生した熊本地震によって被災したペットの緊急避難を受け入れるため、同年6月に「九州災害時動物救援センター（以下、同センター）」の一部施設を「熊本地震ペット救援センター」として開所し、これまで犬・猫あわせて70頭を保護してきました。当初は6ヶ月の一時預かりの受け入れを予定しておりましたが、被災地の復興が遅れる状況や、新たに預かりを希望する被災した飼い主が増えたため、「熊本地震ペット救護本部（以下、救護本部）」において二度に渡る延長措置を決定し支援を継続してまいりました。預かり開始から一年が過ぎ、飼い主の皆様も新たな生活環境が

整い動物たちも徐々に飼い主の元に戻るケースも増え、また被災を理由とする預かり希望者やその相談も減ったことから、救護本部は昨年10月末日をもって「熊本地震ペット救援センター」を閉所し被災動物は随時飼い主に返還することを決定し、その節目として11月3日に「熊本地震ペット救援センター閉所式」とあわせペットの返還セレモニーが行われました。

当日は心地よい秋空の下、被災地熊本からこの日の再開を待ちわびていた飼い主の多くが、家族である犬や猫を迎えに駆けつけました。また

熊本地震を始め関係自治体や九州地区獣医師会の関係者が多数出席し、家族の再開と希望あふれる新たな生活を祝福する雰囲気のなかで式典が進み、当日公務のため出席できなかった蒲島熊本県知事より被災地を代表して感謝のメッセージが届けられました。式のメインであるペットの返還セレモニーでは、ペキニーズのペッキーくんが少し興奮した様子で飼い主の胸に飛び込む感動のシーンもあり、お世話をしてきたスタッフにとっては寂しさとともに、命を護る責任を果たせた充足感を感じられたことと思います。これからも残された数頭の動物たちの新たな生活に向けた支援を行う一方で、同センターが果たすべき社会貢献活動に邁進していきます。



# 犬のしつけ方教室



「九州災害時動物救援センター（以下、当センター）」では、当センターに預かっていた熊本地震の被災ペットのうち、高齢の被災した飼い主などのやむを得ない事情により残念ながら引き取りが困難となったペット数頭の新たな飼い主探しと、地域住民の方がより良いペットとの関係を築ききっかけとなることを願い12月23日に「犬のしつけ方教室」を開催し



ました。講師には当センターの立ち上げスタッフとしてご尽力いただいた松島先生を迎え、ペットと人間のコミュニケーションの取り方を中心としたプログラムを実施し、スタッフも参加しての実践トレーニングなど楽しみながら学べる講座となりました。いざ災害が身に降りかかった場合にも困らないペットの飼い方は日頃から心がけることが命を預かる飼い主の責任でもあります。今後もこのような一般の飼い主を対象とした事業も企画していきたいと思

